

2021/6/15

柏の景気情報(令和3年5月分)

柏 商 工 会 議 所

(本件担当) 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
T E L : 04-7162-3305
F A X : 04-7162-3323
U R L : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（令和3年5月分）

○ 調査期間：令和3年5月24日～令和3年6月8日

○ 調査対象：柏市内130事業所及び組合にヒアリング

<産業別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	130	92	70.8%
建設	32	19	59.4%
製造	35	25	71.4%
卸・小売	38	29	76.3%
サービス	25	19	76.0%

○ 調査方法と調査表：下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1増加他の回答割合 - 3減少他の回答割合

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【令和3年5月の業況についての状況】

○ 5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲17.3(前月水準▲12.7)となり、マイナス幅が4.6ポイント拡大した。

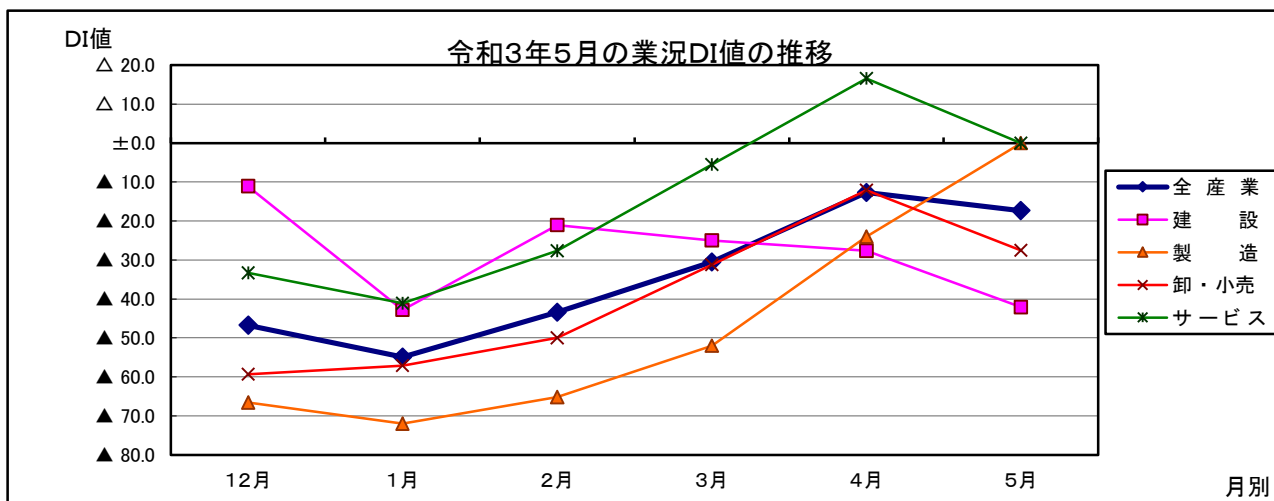
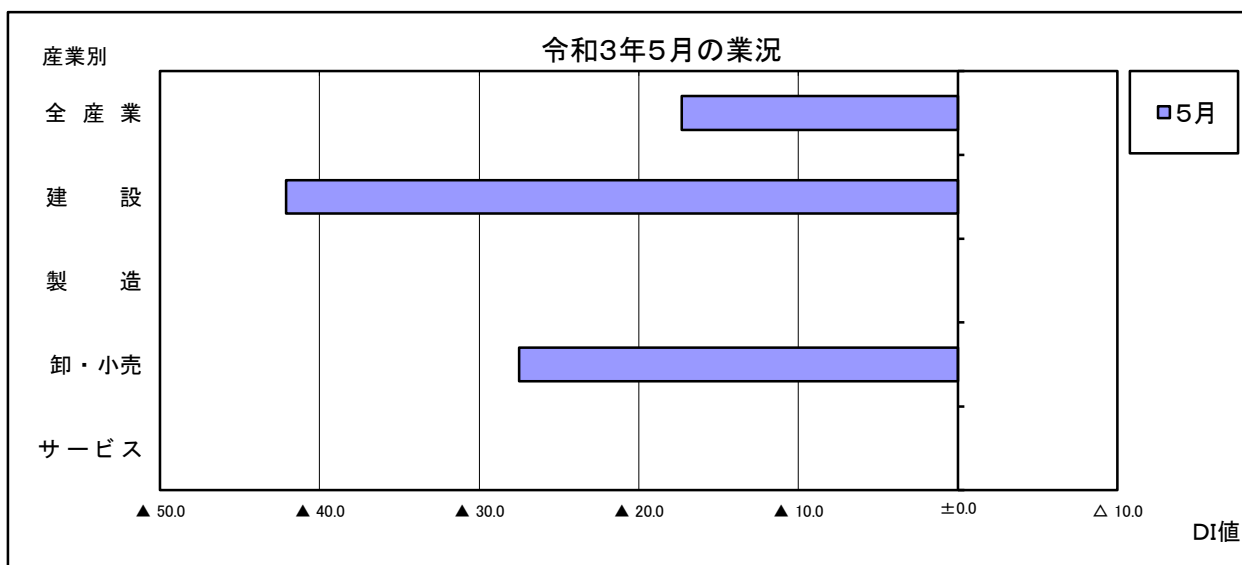
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業±0.0(同▲24.0)である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業±0.0(同△16.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲27.5(同▲12.1)、建設業▲42.1(同▲27.7)である。

○ 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲19.5(前月水準▲29.7)となり、マイナス幅が10.2ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、サービス業△5.2(同▲16.6)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲26.3(同▲44.4)、製造業▲8.0(同▲24.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲41.3(同▲33.3)である。

令和3年5月業況DI値(前年同月比)の推移

	令和2年 12月	令和3年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月～8月(5月～7月)
全産業	▲46.7	▲54.9	▲43.4	▲30.5	▲12.7	▲17.3	▲19.5(▲29.7)
建設	▲11.1	▲42.8	▲21.0	▲25.0	▲27.7	▲42.1	▲26.3(▲44.4)
製造	▲66.6	▲72.0	▲65.2	▲52.0	▲24.0	±0.0	▲8.0(▲24.0)
卸・小売	▲59.3	▲57.1	▲50.0	▲31.2	▲12.1	▲27.5	▲41.3(▲33.3)
サービス	▲33.3	▲41.1	▲27.7	▲5.5	△16.6	±0.0	△5.2(▲16.6)



【令和3年5月の売上についての状況】

○ 5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲16.3(前月水準▲10.6)となり、マイナス幅が5.7ポイント拡大した。

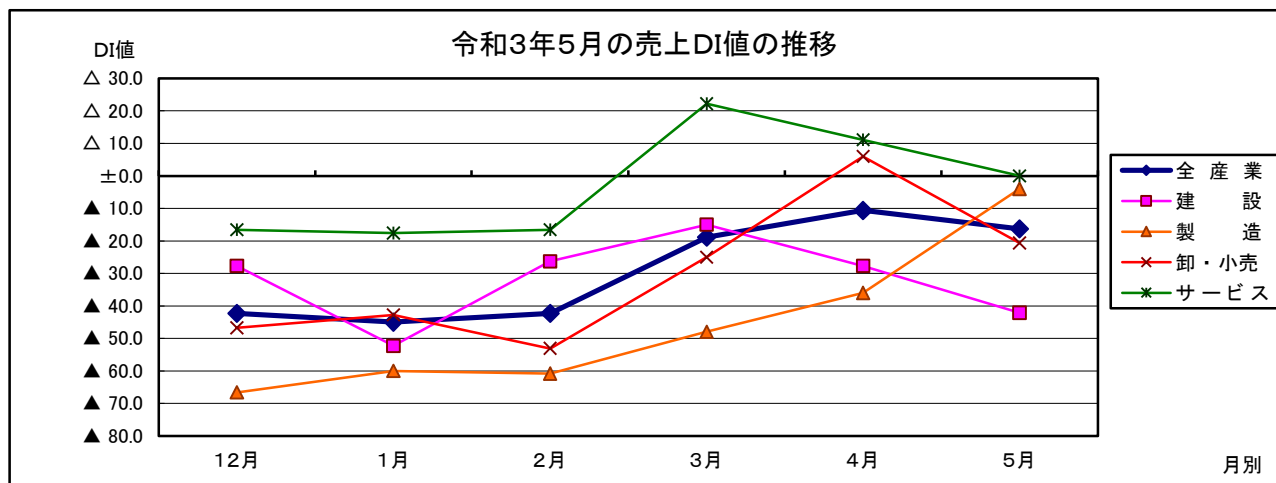
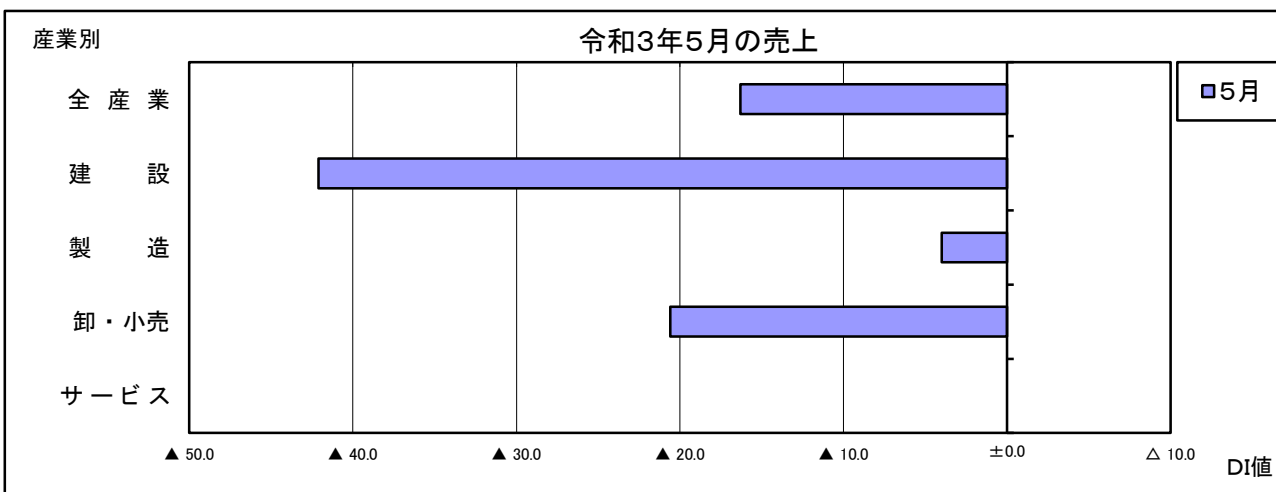
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲4.0(同▲36.0)である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業±0.0(同△11.1)である。プラスからマイナスに転じた業種は、卸小売業▲20.6(同△6.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲42.1(同▲27.7)である。

○ 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲10.8(前月水準▲31.9)となり、マイナス幅が21.1ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、サービス業△21.0(同▲22.2)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲5.2(同▲38.8)、製造業▲12.0(同▲20.0)、卸小売業▲34.4(同▲42.4)である。

令和3年5月の売上DI値(前年同月比)の推移

	令和2年 12月	令和3年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月～8月(5月～7月)
全産業	▲42.3	▲45.0	▲42.3	▲18.9	▲10.6	▲16.3	▲10.8(▲31.9)
建設	▲27.7	▲52.3	▲26.3	▲15.0	▲27.7	▲42.1	▲5.2(▲38.8)
製造	▲66.6	▲60.0	▲60.8	▲48.0	▲36.0	▲4.0	▲12.0(▲20.0)
卸・小売	▲46.8	▲42.8	▲53.1	▲25.0	△6.0	▲20.6	▲34.4(▲42.4)
サービス	▲16.6	▲17.6	▲16.6	△22.2	△11.1	±0.0	△21.0(▲22.2)



【令和3年5月の採算についての状況】

○ 5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲20.6(前月水準▲17.0)となり、マイナス幅が3.6ポイント拡大した。

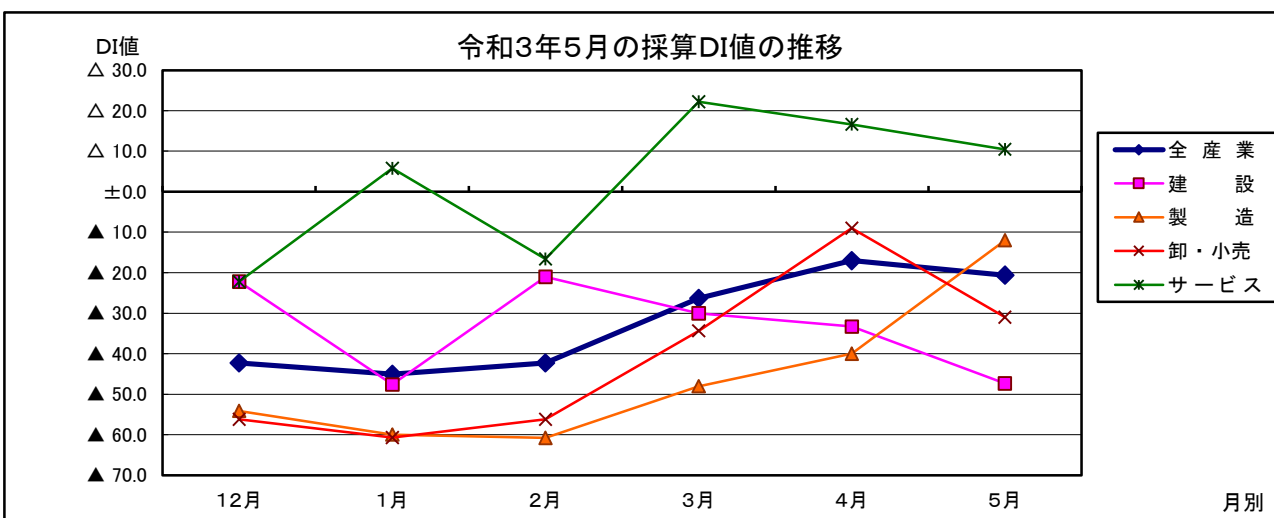
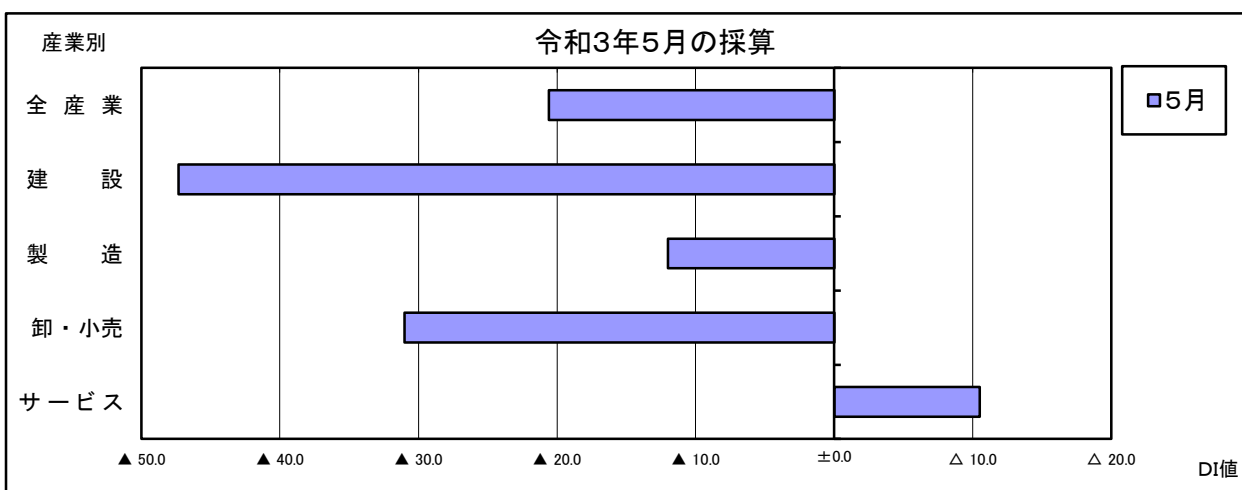
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲12.0(同▲40.0)である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業△10.5(同△16.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲31.0(同▲9.0)、建設業▲47.3(同▲33.3)である。

○ 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲10.8(前月水準▲31.9)であり、マイナス幅が21.1ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、サービス業△21.0(同▲22.2)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲15.7(同▲38.8)、製造業▲4.0(同▲20.0)、卸小売業▲34.4(同▲42.4)である。

令和3年5月の採算DI値(前年同月比)の推移

	令和2年 12月	令和3年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月～8月(5月～7月)
全産業	▲42.3	▲45.0	▲42.3	▲26.3	▲17.0	▲20.6	▲10.8(▲31.9)
建設	▲22.2	▲47.6	▲21.0	▲30.0	▲33.3	▲47.3	▲15.7(▲38.8)
製造	▲54.1	▲60.0	▲60.8	▲48.0	▲40.0	▲12.0	▲4.0(▲20.0)
卸・小売	▲56.2	▲60.7	▲56.2	▲34.3	▲9.0	▲31.0	▲34.4(▲42.4)
サービス	▲22.2	△5.8	▲16.6	△22.2	△16.6	△10.5	△21.0(▲22.2)



【令和3年5月の仕入単価についての状況】

○ 5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲39.1(前月水準▲32.9)となり、マイナス幅が6.2ポイント拡大した。

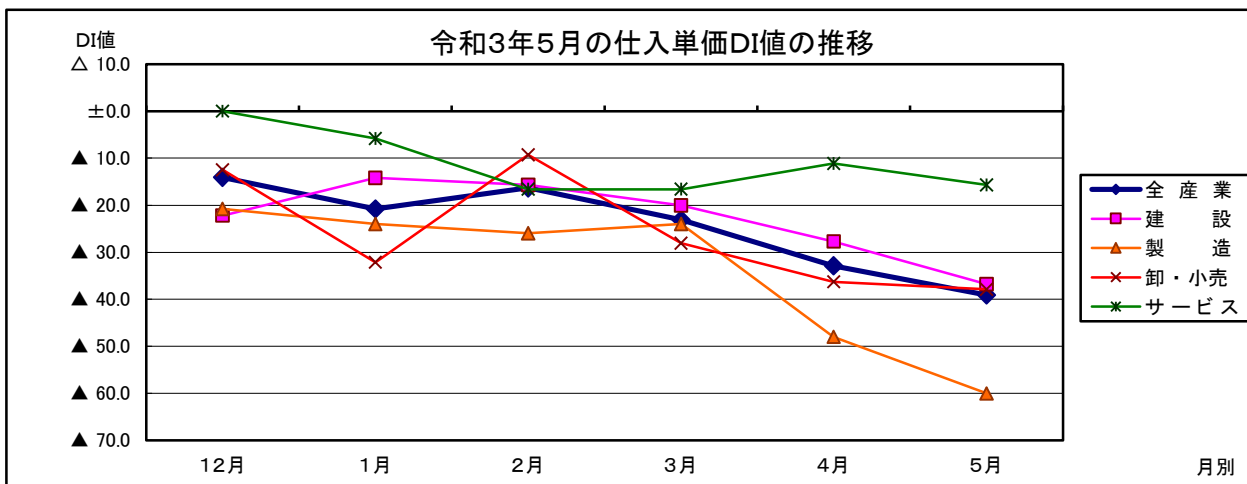
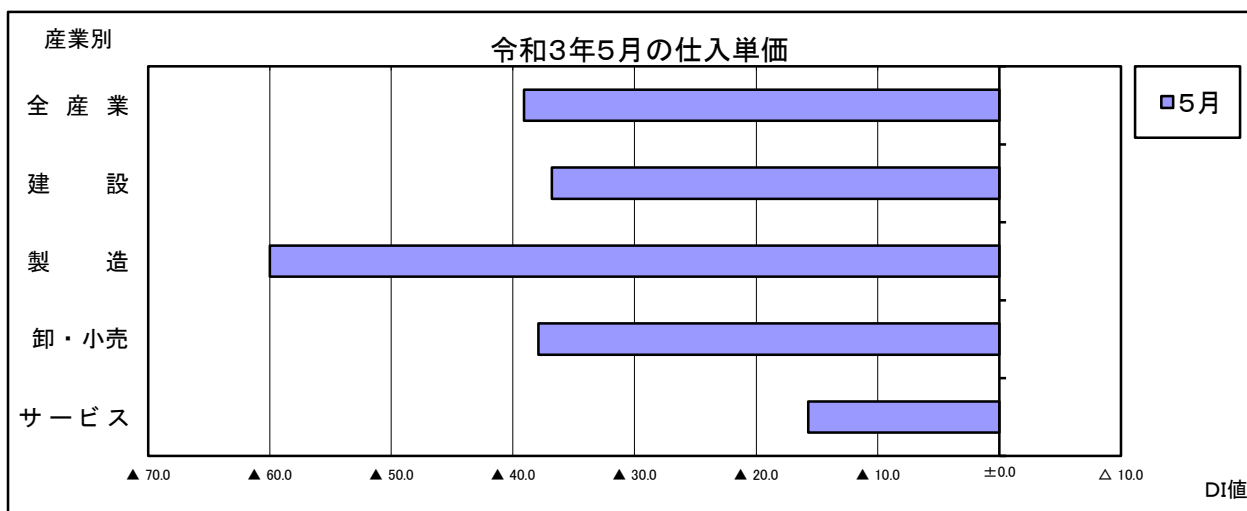
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲60.0(同▲48.0)、建設業▲36.8(同▲27.7)、サービス業▲15.7(同▲11.1)、卸小売業▲37.9(同▲36.3)である。

○ 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲31.5(前月水準▲26.5)となり、マイナス幅が5.0ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲15.7(同▲5.5)、製造業▲52.0(同▲48.0)、建設業▲31.5(同▲27.7)、卸小売業▲24.1(同▲21.2)である。

令和3年5月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	令和2年 12月	令和3年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月～8月(5月～7月)
全産業	▲14.1	▲20.8	▲16.3	▲23.1	▲32.9	▲39.1	▲31.5(▲26.5)
建設	▲22.2	▲14.2	▲15.7	▲20.0	▲27.7	▲36.8	▲31.5(▲27.7)
製造	▲20.8	▲24.0	▲26.0	▲24.0	▲48.0	▲60.0	▲52.0(▲48.0)
卸・小売	▲12.5	▲32.1	▲9.3	▲28.1	▲36.3	▲37.9	▲24.1(▲21.2)
サービス	±0.0	▲5.8	▲16.6	▲16.6	▲11.1	▲15.7	▲15.7(▲5.5)



【令和3年5月の従業員についての状況】

○ 5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△10.8(前月水準△12.7)となり、プラス幅が1.9ポイント縮小した。

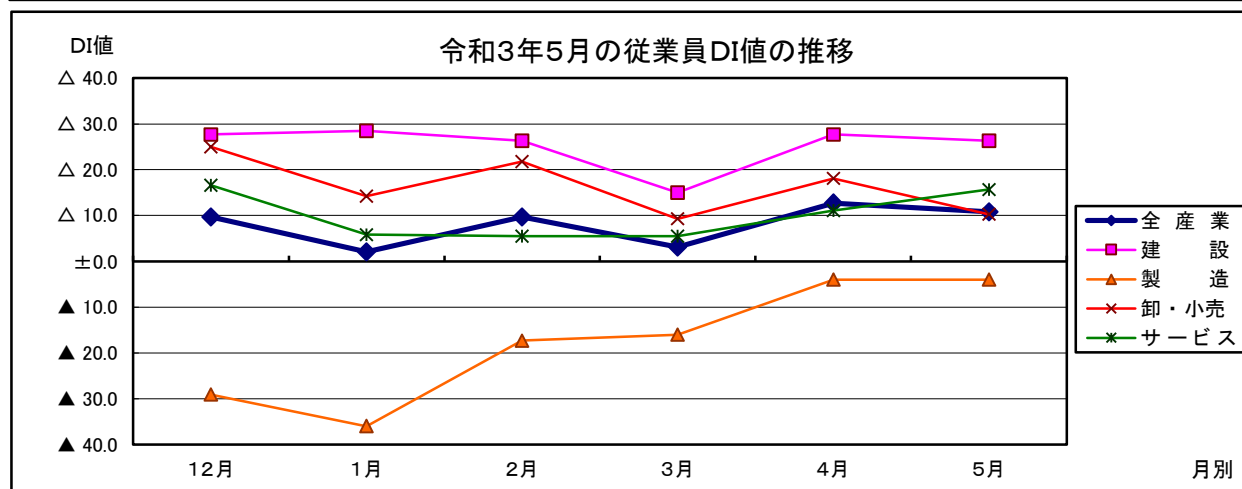
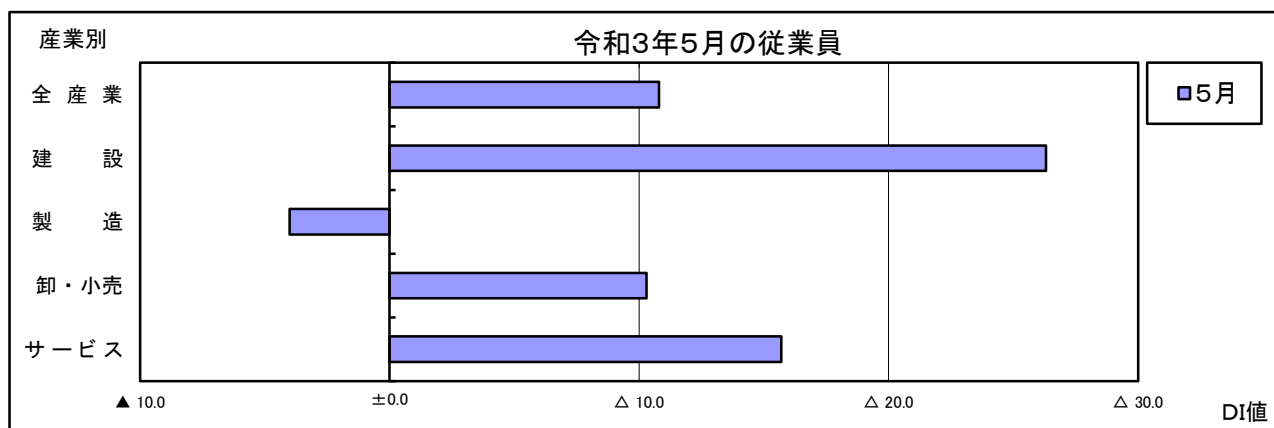
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△15.7(同△11.1)である。変らない業種は、製造業▲4.0(同▲4.0)である。プラス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業△10.3(同△18.1)、建設業△26.3(同△27.7)である。

○ 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、△8.6(前月水準△10.6)となり、プラス幅が2.0ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△21.0(同△5.5)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業△6.8(同△18.1)、建設業△26.3(同△27.7)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲12.0(同▲8.0)である。

令和3年5月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	令和2年 12月	令和3年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月～8月(5月～7月)
全産業	△ 9.7	△ 2.1	△ 9.7	△ 3.1	△ 12.7	△ 10.8	△ 8.6 (△ 10.6)
建設	△ 27.7	△ 28.5	△ 26.3	△ 15.0	△ 27.7	△ 26.3	△ 26.3 (△ 27.7)
製造	▲ 29.1	▲ 36.0	▲ 17.3	▲ 16.0	▲ 4.0	▲ 4.0	▲ 12.0 (▲ 8.0)
卸・小売	△ 25.0	△ 14.2	△ 21.8	△ 9.3	△ 18.1	△ 10.3	△ 6.8 (△ 18.1)
サービス	△ 16.6	△ 5.8	△ 5.5	△ 5.5	△ 11.1	△ 15.7	△ 21.0 (△ 5.5)



【令和3年5月の資金繰りについての状況】

○ 5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲16.3(前月水準▲11.7)となり、マイナス幅が4.6ポイント拡大した。

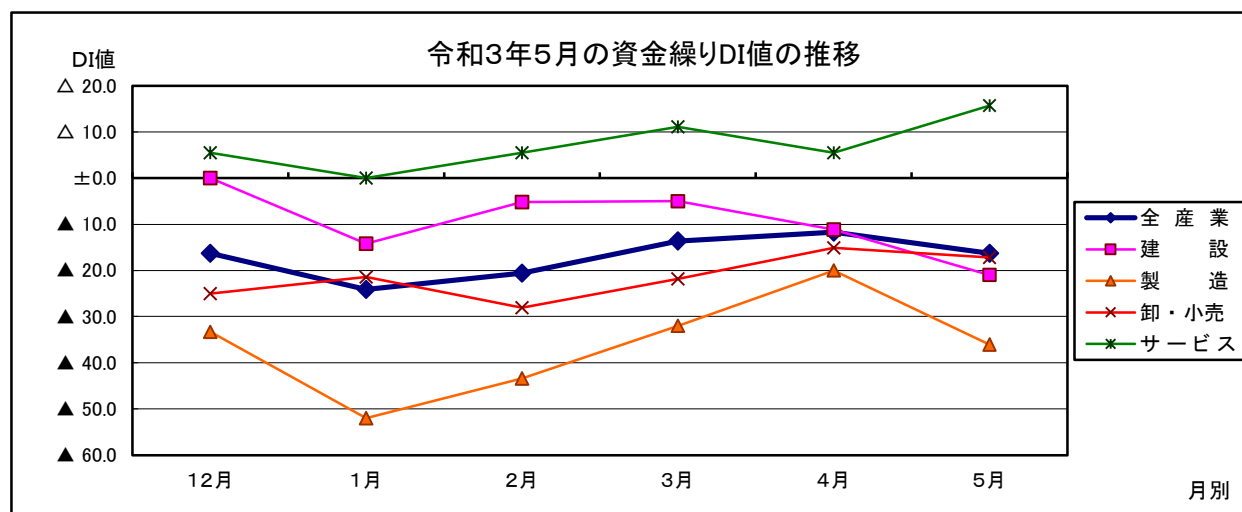
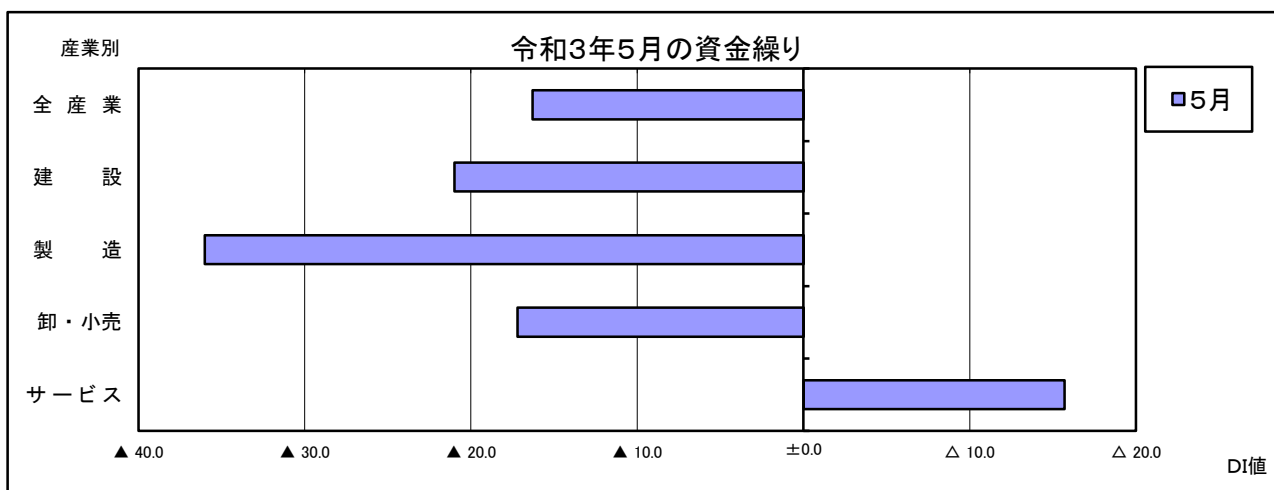
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△15.7(同△5.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲36.0(同▲20.0)、建設業▲21.0(同▲11.1)、卸小売業▲17.2(同▲15.1)である。

○ 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲17.3(前月水準▲21.2)となり、マイナス幅が3.9ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、サービス業△5.2(同▲11.1)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲16.0(同▲28.0)、建設業▲10.5(同▲16.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲37.9(同▲24.2)である。

令和3年5月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	令和2年 12月	令和3年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月～8月(5月～7月)
全産業	▲16.3	▲24.1	▲20.6	▲13.6	▲11.7	▲16.3	▲17.3(▲21.2)
建設	±0.0	▲14.2	▲5.2	▲5.0	▲11.1	▲21.0	▲10.5(▲16.6)
製造	▲33.3	▲52.0	▲43.4	▲32.0	▲20.0	▲36.0	▲16.0(▲28.0)
卸・小売	▲25.0	▲21.4	▲28.1	▲21.8	▲15.1	▲17.2	▲37.9(▲24.2)
サービス	△5.5	±0.0	△5.5	△11.1	△5.5	△15.7	△5.2(▲11.1)



【令和3年5月の調査結果のポイント】

《全産業DIは再び悪化。感染症影響の長期化で先行きも厳しい見通し》

5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲17.3(前月水準▲12.7)となり、マイナス幅が4.6ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業±0.0(同▲24.0)である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業±0.0(同△16.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲27.5(同▲12.1)、建設業▲42.1(同▲27.7)である。

5月はまん延防止等重点措置が実施、延長され、一部の製造業から受注増の声があるが、時計・眼鏡等小売店から来店客数の大幅減、飲食店から客数、客単価減少のコメントが寄せられた。また、建設業からウッドショックによる木材不足、製造業からプラスチック原料不足についてコメントが寄せられ、原材料不足、コスト増加により利益が圧迫されている。

先行きDIは▲19.5(前月比▲2.2)と、新型コロナウイルス感染症の動向に懸念は大きいですが、コメントからワクチン接種による好転を期待する声もある。

【建設業】からは、「昨年の今頃は特別定額給付金で畳工事が増えたが、今年は低迷(畳)」、「ウッドショックによる木材不足により新築現場の建て控えがある様子。景気、仕事量が悪化している(とび)」、「ウッドショックにより材木が日々高騰していて、確保が困難。家の建築を先延ばしにするお客様が多くなるだろう(一般土木建築工事)」、「大雨や、地震により漏水してしまった緊急性のある物件の依頼はあるが、民間発注は少ない(塗装工事)」などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「5月中旬以降、受注、引き合いが大幅に増加。好転の要因は不明(機械・同部品)」、「過去の努力の成果として特需が発生し業績が好転した。テレワーク、リモート会議を駆使しても従来の営業活動に程遠く、ワクチンが待ち遠しい。欧米の寒波や工場事故の影響でプラスチック原料が高騰し、販売価格への転嫁が難航しそう(化学工業)」、「人材不足により受注対応策が進まない。かつてない原材料の高騰により利益を圧迫。デジタル化、環境、BCP等の課題もある(金属素形材製品)」、「販促品関連の受注が減り、前月比売上20%減(印刷)」、「テレワークを継続するに当たり、在宅勤務規則を制定予定。お客様の製品在庫減により、注文増に転じてきた(鉄鋼)」、「コロナ後1年経過してようやく上向きの兆し。今後の自動車産業の生産数によってはマイナス影響が出る。コロナ禍以前と比べ受注内容が明らかに変化しているの、今後も注視したい(金属製品)」、「昨年比でコロナの影響は小さく、売上の減少は免れている。しかし、様々な規制が長期化すると景気への影響が再燃しそう(自動車付属品)」、「酒類提供禁止により業務用が激減。家庭用や輸出用は多少増加しているが、全体的には厳しい(酒類)」などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「お酒の飲み方が問題なのに、飲食店にお酒を提供させない政府の方針はおかしいと思う(各種食料品小売)」、「天候不順が影響し、売上不振が続いた(建築材料卸売)」、「昨年は店舗の閉鎖で売上半減したが、今年は例年通り。母の日は在宅需要で良かった(洋菓子店)」、「まん延防止等重点措置で飲食は客数が戻らず、客単価も下落(各種商品小売)」、「GW、母の日が過ぎたら売上激減(洋菓子店)」、「来客数は平年の5分の1。お客様の自宅訪問依頼が増えるが、店頭人数制限があり、日時を決めて出向いている(時計・眼鏡・光学機械小売)」、「食品は贅沢メニューや家飲み関連が好調。以前の様に20時以降にのお客様が増加する事はない(大型小売店)」、「飲食店向けが動かず、スーパー等への卸売、輸出、地方向けでカバー。テイクアウト系の納品量が増えており、売上も上がっている様子。この傾向は続くと思うので売り先をよく検討したい(農畜産物・水産物卸売)」、「施設全体が通常営業しているが、総売上高が前年比1.57、前々年比0.56。コロナ前と比べ、特に飲食部門は70%減(公衆浴場)」などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「ワクチン接種が進み先行き好転を期待。まん延防止等重点措置の解除後も席の間隔を1mあけるようでは売上半減で、採算に乗るのは厳しい。今後、いかにコロナ前に近づいた状態で営業できるかが焦点(日本料理)」、「この1年でWeb会議や講習にすっかり慣れた。効率と実務の影響を考えながら、現代技術を大いに活用したい(不動産賃貸・管理)」、「日々子供たちに接する身としては、オリンピックより子ども達の行事を優先してほしい(塾)」、「同業他社が6月にオープンし、お客様を奪い合う事が予想される。酒類提供自粛、時短営業で不安定要素が強い(ホテル)」、「働きやすい職場認証制度」が導入され、人手不足が慢性化している運送業界が、就職・転職の選択肢に加わるための会社の評価基準として有効と考えている(一般貨物自動車運送業)」などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
12月	▲46.7	▲11.1	▲66.6	▲59.3	▲33.3
1月	▲54.9	▲42.8	▲72.0	▲57.1	▲41.1
2月	▲43.4	▲21.0	▲65.2	▲50.0	▲27.7
3月	▲30.5	▲25.0	▲52.0	▲31.2	▲5.5
4月	▲12.7	▲27.7	▲24.0	▲12.1	△16.6
5月	▲17.3	▲42.1	±0.0	▲27.5	±0.0
見通し	▲19.5	▲26.3	▲8.0	▲41.3	△5.2

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 16.3	▲ 10.8	▲ 20.6	▲ 10.8	▲ 39.1	▲ 31.5	△ 10.8	△ 8.6
建設	▲ 42.1	▲ 5.2	▲ 47.3	▲ 15.7	▲ 36.8	▲ 31.5	△ 26.3	△ 26.3
製造	▲ 4.0	▲ 12.0	▲ 12.0	▲ 4.0	▲ 60.0	▲ 52.0	▲ 4.0	▲ 12.0
卸・小売	▲ 20.6	▲ 34.4	▲ 31.0	▲ 34.4	▲ 37.9	▲ 24.1	△ 10.3	△ 6.8
サービス	±0.0	△ 21.0	△ 10.5	△ 21.0	▲ 15.7	▲ 15.7	△ 15.7	△ 21.0

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 17.3	▲ 19.5	▲ 16.3	▲ 17.3
建設	▲ 42.1	▲ 26.3	▲ 21.0	▲ 10.5
製造	±0.0	▲ 8.0	▲ 36.0	▲ 16.0
卸・小売	▲ 27.5	▲ 41.3	▲ 17.2	▲ 37.9
サービス	±0.0	△ 5.2	△ 15.7	△ 5.2

令和3年5月CCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲17.3に対し、「CCI-LOBO」が▲25.0で柏の方がマイナス幅が7.7ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、卸小売業、サービス業であり、製造業、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業であり、10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲16.3に対し、「CCI-LOBO」が▲13.0で柏の方がマイナス幅が3.3ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業であり、建設業は10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲20.6に対し、「CCI-LOBO」が▲20.9で柏の方がマイナス幅が0.3ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業であり、建設業は10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲39.1に対し、「CCI-LOBO」が▲31.7で柏の方がマイナス幅が7.4ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業であり、10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△10.8に対し、「CCI-LOBO」が△6.6で柏の方がプラス幅が4.2ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、卸小売業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業である。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲16.3に対し、「CCI-LOBO」が▲16.7で柏の方がマイナス幅が0.4ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、卸小売業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業であり、10ポイント以上悪い。

【令和3年5月業種別業界内トピックス】

業種別	概 況	トピック	業種
建設業	昨年の今頃は特別定額給付金のおかげで畳工事が増えたが、今年は残念ながら低迷。早く特効薬の承認が進むと良いと思う。	畳工事前年比減少	畳工事請負・畳製造販売業
	建築業はウッドショックによる木材の不足により新築現場の建て控えがあるようで、景気及び仕事量が悪化している。	ウッドショック	とび
	ウッドショックにより材木が日々高騰しており、確保が困難。家の建築を先延ばしにするお客が多く出るだろう。	ウッドショック	一般土木建築工事業
	年度が代わり、景気動向を警戒してなのか民間発注の案件が少ない。コロナの影響なのは確かである。いざという時のために、個人も、企業も緊急性の無いものは控えていると感じる。大雨や、地震による被害が基となり漏水してしまった物件からの依頼はあるが、緊急性のあるものだけが発注されていると推測する。	民間発注数減少	塗装工事業
製造業	4月のスタートから新規受注、引き合いが非常に少なかったが、今月中旬以降、受注を含めた引き合いが大幅に増加し好転の期待感が出てきた。 好転の要因はつかめていない。	引き合い増加	機械・同部品製造業
	依然としてコロナ禍の影響を受けており、受注の下げ止まりが見えない状況。	受注減少	電子応用装置製造業
	新型コロナウイルスの影響による、紙使用量減少。主要取引先、製紙業界の業績悪化が影響している。	紙の使用量減少による影響	織物業
	昨年同期は新型コロナ以前の発注が残っていたため、仕事量はそこそこ抱えていた。今年度はコロナの影響が直撃し、化粧品容器(特にメイクアップ関連)は壊滅状態である。	壊滅的な化粧品容器発注数の減少	プラスチック加工
	過去の努力の成果として特需が発生し業績が好転したが、下半期以降はまだわからない状況。テレワーク、リモート会議を駆使しているが従来の営業活動には程遠く、ワクチンが待ち遠しい。欧米の寒波や工場事故など不可抗力なものの影響でプラスチック原料の高騰が著しいが、販売価格への転嫁が難航すると思われる。	プラスチック原料高騰	化学工業
	5月以降は、緊急事態宣言及びまん延防止等特別措置による飲食店の時短及び休業要請、酒類の提供自粛により、業務用商材を中心に製造が激減している。6月、7月も同様の傾向。家庭用や輸出用商材はそこそこ増加しているが、全体的には厳しい状況が見込まれる。	まん延防止等特別措置による影響	酒類製造業
	人材不足に伴う受注対応策が進まない。今後の継続的な課題である。これまでにない原材料の高騰により利益が圧迫されている。デジタル化、環境、BCP等の課題もある。	人材不足 原材料高騰	金属素形材製品製造業
	事業者からの販促品等に関わる受注が減っている中、 今月は前月比売上20%減である。景気回復が待たれる。	販促品等に関わる受注減少	印刷業
	テレワークを継続するに当たり、働き方として在宅勤務規則の制定を予定。お客様が製品在庫減により、注文増に転じてきている。	在宅勤務規則制定 注文数増加	鉄鋼業
	2020年5月より新型コロナウイルスの影響にて売上が減少。1年経過してようやく上向きの兆しがみられる。今後の自動車産業の生産数によって弊社にもマイナス余波が予測できる。全体としてコロナ禍以前の受注内容と明らかに変化がみられるので、今後注視して乗り遅れないようにしたい。	景気上向きの兆し	金属製品
卸・小売業	給与は賃金ベースでボーナスは無しであるが、会社の継続を願って、知恵を出し合い結束している。	ボーナスカット	印刷業
	昨年度の同時期に比べ、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発出されていても新型コロナウイルスによる影響は小さく、売上の減少は今のところ免れている。しかし様々な規制が長期化すると景気への影響が再燃しそう。	昨年と比べたコロナの影響の減少	自動車付属品製造業
	問題はお酒の飲み方であるのにも関わらず、飲食店にお酒を提供させない政府のやり方はおかしいと思う。配っている支援金も税金からである。今後の増税や廃業などから大きく経済が落ち込む不安がある。	先行き不安	各種食料品小売業
	天候不順の影響もあり、売上の不振がつづいた。	売上不振	建築材料卸売業
	昨年比では改善の結果も、昨年は店舗を完全休業した事もあったため、対前々年で見ると決して良くなっているというわけではありません。	対全前年比改善せず	各種食料品小売業
	昨年はコロナで店舗の閉鎖があったため、売上が半減しましたが、今年は閉店もなく例年通りの売上だった。母の日はおうち需要で良かった。	母の日好調	洋菓子店
	「まん延防止等重点措置」が続き、飲食は客数が戻らない状態。飲食では客数も少ないが、客単価も下がっている。	まん延防止等特別措置による影響	各種商品小売業
	GW、母の日が過ぎたら売上激減。	GW、母の日以降売上激減	洋菓子店
	対前年比:入館者数1.47、単価1.07、総売上高1.57 対前々年比:入館者数0.73、単価0.76、総売上高0.56 前年比はクリアしているが、コロナ前と比較して特に飲食部門は時短営業及び酒類提供禁止等(1店舗休業中)により売上高が約70%減。なお、温浴施設全体は通常営業している。	対前々年比減少	公衆浴場業
	まん延防止等重点措置や外出自粛の影響で、平年より来客数は5分の1。6月20日まで延長され非常に厳しい状況。お客様も困っておりご自宅訪問依頼は増えるが、店頭人数制限があり日時を決めて出向く状態である。	来店客数減少 自宅訪問以来増加	時計・眼鏡・光学機械小売業
	巣ごもり需要は相変わらず好調で、食品は贅沢メニューや家飲み関連が好調。以前の様に20時以降にお客様が増加することはなく、買い物に困った人が流れ込む状況は見られない。駅周辺の人出も多く、自粛が薄い。	巣ごもり需要好調	大型小売店
	飲食店への卸売業務はほぼ動かなくなっているが、スーパー等の卸売、輸出、地方向けの出荷でカバーしている。食品の方はテイクアウト、持ち帰り系のお店で納品量が増えており、売上も上がっている様子。アフターコロナもこの傾向はある程度続くと思うので売り先の検討もよく行いたい。	アフターコロナを見据えた営業	農畜産物・水産物卸売業
	ワクチン接種が進み、3か月後には好転することを期待している。現状、まん延防止等重点措置が解除されても、席の間隔1mなどの条件では、売上は半減してしまい、採算に乗るのは厳しい状況。今後、コロナ前に近づいた内容で営業できるかが焦点である。	ワクチン接種後に期待 飲食店への規制緩和	日本料理

【令和3年5月業種別業界内トピックス】

サービス業	この1年でWeb会議・講習に、すっかり慣れた。今後は移動の効率と実務の影響を考えながら、現代技術の活用を大いに仕事に取り入れていきたい。	現代技術の活用	不動産賃貸・管理業
	本年度は昨年からの継続事業があり好転する見込み。来年度は不変となりそう。	本年度好転見込み	ソフトウェア業
	商工会議所は、会費を払い続ける会員様の為に平等公平に地元業者を助けるべきだと思う。	商工会議所事業への提言	不動産賃貸業
	修学旅行や林間学校の中止、延期など学校行事の変更が相次ぎ、その都度塾の授業日程も変更を余儀なくされている。楽しみにしていた学校行事を子どもたちに我慢させる一方で、オリンピックを強行しようとする国の方針に不満を唱える生徒や保護者が非常に多い。日々子どもたちに接している身としては、政府にはオリンピックなどよりも子どもたちの行事を優先的に考えてほしいと強く思う。	学校行事中止による影響	学習塾
	景気は確実に冷えてきたようだ。	景気の冷え込み	税理士
	東京都の緊急事態宣言並びに千葉県のもん延防止等重点措置が施行され、酒類の提供自粛や営業時間短縮など不安定要素が強い。同業他社も6月にオープンし、少ないお客様を奪い合う事が予想される。オリンピックも開催が危ぶまれる中で先行き不透明感が強い。	同業者オープンによる影響 先行き不透明	ホテル
	「働きやすい職場認証制度」が導入され、人手不足が慢性化している運送業界への就職・転職の選択肢に加わる会社の評価基準として有効と考えている。	働きやすい職場認証制度	一般貨物自動車運送業
	購入希望者からの問い合わせは変わらずある。土地や戸建て、マンションの売却は減少。また、価額は値上がり気味。木材が値上がりしているので、これからの建築費高騰が心配。	購入問い合わせあり 木材値上がりによる影響	不動産管理業

令和3年5月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI $\geq$ 50	好調 50>DI $\geq$ 25	まあまあ 25>DI $\geq$ 0	不振 0>DI $\geq$ ▲25	極めて不振 ▲25>DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 17.3	 ▲ 42.1	 ±0.0	 ▲ 27.5	 ±0.0
CCI—LOBO	 ▲ 25.0	 ▲ 18.9	 ▲ 15.0	 ▲ 31.6	 ▲ 33.5

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 16.3	 ▲ 42.1	 ▲ 4.0	 ▲ 20.6	 ±0.0
CCI—LOBO	 ▲ 13.0	 ▲ 16.0	 ▲ 6.5	 ▲ 16.6	 ▲ 15.8

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 20.6	 ▲ 47.3	 ▲ 12.0	 ▲ 31.0	 10.5
CCI—LOBO	 ▲ 20.9	 ▲ 20.0	 ▲ 13.9	 ▲ 23.4	 ▲ 27.9

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 39.1	 ▲ 36.8	 ▲ 60.0	 ▲ 37.9	 ▲ 15.7
CCI—LOBO	 ▲ 31.7	 ▲ 43.7	 ▲ 40.1	 ▲ 25.9	 ▲ 21.0

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 10.8	 26.3	 ▲ 4.0	 10.3	 15.7
CCI—LOBO	 6.6	 18.9	 1.7	 8.9	 3.8

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 16.3	 ▲ 21.0	 ▲ 36.0	 ▲ 17.2	 15.7
CCI—LOBO	 ▲ 16.7	 ▲ 4.0	 ▲ 12.5	 ▲ 20.0	 ▲ 28.4

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測 (5月速報)

調査期間：2021年5月14日～20日

調査対象：全国の337商工会議所が2,679企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、感染拡大に伴う活動制約から足踏み。先行きは、不透明感増す中、厳しい見通し

5月の全産業合計の業況DIは、▲25.0と、前月から+0.3ポイントの改善。米国・中国などの海外経済の回復に伴い、需要増が続く半導体・電子部品関連や自動車関連の製造業・卸売業が堅調に推移した。一方、小売業では、緊急事態宣言に伴う活動制約・客足減少とともに、前年同月の買いだめ需要の喪失の影響を受けているとの声もあり、業況が悪化した。また、宣言が発令されている地域以外においても活動縮小が発生し、外食・観光関連では業績改善への対応に苦慮している状況がうかがえる。このほか、原材料費上昇によるコスト増加が業種を問わず、広く業況の押し下げ要因となっており、中小企業の景況感は厳しい状況が続く。

先行きについては、先行き見通しDIが▲33.6（今月比▲8.6ポイント）と悪

化を見込む。ワクチン接種拡大による感染抑制効果や、海外経済回復に伴う電子部品関連の輸出増に期待する声が聞かれる。一方、変異株による感染拡大が収まらず、緊急事態宣言が延長されるなど先行き不透明感が増す中、活動制約の長期化への懸念に加え、製品・サービスの受注・売上減少による業績悪化、原材料費や燃料費の上昇による採算悪化を懸念する声は多く、先行きに対して厳しい見方が続く。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

業種別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、建設業、小売業で悪化、サービス業は横ばい、その他の業種で改善した。各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「防災・減災など土木工事を中心とした公共工事で売上を確保しているが、輸入木材や鉄鋼などの仕入価格の上昇が続く、採算は悪化した」（一般工事業）、「民間工事の発注量減少により公共工事の入札事業者が増えており、価格競争が厳しくなっている」（管工事業）

【製造業】「鉄鋼の仕入価格が上昇しているものの、主力であるサスペンションの海外からの引き合いが伸びており、売上は改善」（自動車部品製造業）、「土産品の需要減少で売上は悪化。内食需要の高まりから、原材料である鶏卵の仕入価格が上昇しており、今後の採算悪化を懸念している」（菓子製造業）

【卸売業】「前年同月は緊急事態宣言の影響で主要取引先である学校給食向けの受注が減少したが、今年は売上・採算ともに例年の約8割まで回復。B to C向けのネット販売を検討しており、今後の収益改善を図っていきたい」（飲食料品卸売業）、「銅の仕入価格が上昇しているが、価格転嫁が追い付かず、採算は悪化」（鉱物金属材料卸売業）

【サービス業】「前年同月は休業の期間があったが、今年は大型連休期間中も営業が可能であったため、売上は改善。ただし、首都圏などで発令された緊急事態宣言の影響により来店客数は例年より大幅に少ない状況が続いている」（百貨店）、「食料品や生活用品を買いだめする消費者の増加に伴い売上が大幅に伸びた前年同月よりも売上は減少した」（スーパー）

【サービス業】「前年同月比では宴会場の利用が増加したため、売上・採算ともに改善。ただし、飲食サービスを伴わない利用が多く、依然として業況は厳しい」（宿泊業）、「コロナ禍で駅前駐車場の稼働率が大幅に低下しているほか、テナントの休業による家賃値下げ要求もあり、今後の売上回復が見通せない状況が続いている」（不動産賃貸業）

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
12月	▲46.1	▲26.9	▲53.4	▲45.3	▲45.5	▲53.0
1月	▲49.5	▲27.1	▲48.5	▲49.0	▲49.5	▲64.7
2月	▲46.8	▲24.9	▲44.8	▲47.7	▲45.8	▲63.0
3月	▲35.3	▲18.4	▲33.6	▲35.0	▲33.9	▲48.5
4月	▲25.3	▲15.5	▲24.1	▲27.0	▲23.5	▲33.5
5月	▲25.0	▲18.9	▲15.0	▲23.9	▲31.6	▲33.5
見通し	▲33.6	▲28.9	▲20.9	▲30.8	▲40.5	▲44.6

柏の景気情報 (令和3年5月の調査結果のポイント)

★調査結果のまとめ

調査期間：令和3年5月24日～6月8日 調査対象：柏市内130事業所及び組合にヒアリング、回答数92件

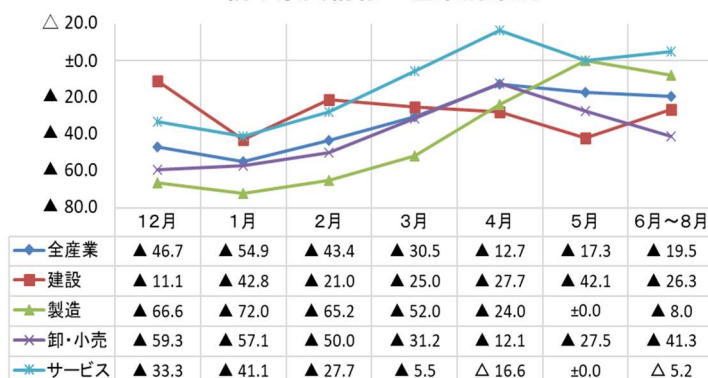
全産業DIは再び悪化。感染症影響の長期化で先行きも厳しい見通し

5月の全産業合計のDI値(前年同月(令和2年5月))は緊急事態宣言発令中で25日に解除は、▲17.3(前月水準▲12.7)となり、マイナス幅が4.6ポイント拡大した。

5月はまん延防止等重点措置が実施、延長され、一部の製造業から受注増の声があるが、時計・眼鏡等小売店から来店客数の大幅減、飲食店から客数、客単価減少のコメントが寄せられた。また、建設業からウッドショックによる木材不足、製造業からプラスチック原料不足についてコメントが寄せられ、原材料不足、コスト増加により利益が圧迫されている。

先行きDIは▲19.5(前月比▲2.2)と、新型コロナウイルス感染症の動向に懸念は大きい、コメントからワクチン接種による好転を期待する声もある。

柏の景気情報・産業別業況DI



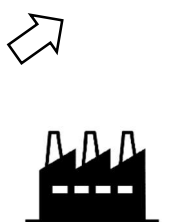
★業種別の動向

前月と比べたDI値の動き 改善 横ばい 悪化



建設業

「昨年の今頃は特別定額給付金で昼工事が増えたが、今年は低迷(曇)、「ウッドショックによる木材不足により新築現場の建て控えがある様子。景気、仕事量が悪化している」とび、「ウッドショックにより材木が日々高騰していて、確保が困難。家の建築を先延ばしにするお客様が多くなるだろう(一般土木建築工事)、「大雨や、地震により漏水してしまった緊急性のある物件の依頼はあるが、民間発注は少ない」(塗装工事)



製造業

「5月中旬以降、受注、引き合いが大幅に増加。好転の要因は不明(機械・同部品)、「過去の努力の成果として特需が発生し業績が好転した。テレワーク、リモート会議を駆使しても従来の営業活動に程遠く、ワクチンが待ち遠しい。欧米の寒波や工場事故の影響でプラスチック原料が高騰し、販売価格への転嫁が難航しそう(化学工業)、「人材不足により受注対応策が進まない。かつてない原材料の高騰により利益を圧迫。デジタル化、環境、BCP等の課題もある(金属素形材製品)、「販促品関連の受注が減り、前月比売上20%減(印刷)、「テレワークを継続するに当たり、在宅勤務規則を制定予定。お客様の製品在庫減により、注文増に転じてきた(鉄鋼)、「コロナ後1年経過してようやく上向きの兆し。今後の自動車産業の生産数によってはマイナス影響が出る。コロナ禍以前と比べ受注内容が明らかに変化しているので、今後も注視したい(金属製品)、「昨年比でコロナの影響は小さく、売上の減少は免れている。しかし、様々な規制が長期化すると景気への影響が再燃しそう(自動車付属品)、「酒類提供禁止により業務用が激減。家庭用や輸出用は多少増加しているが、全体的には厳しい(酒類)



卸・小売業

「お酒の飲み方が問題なのに、飲食店にお酒を提供させない政府の方針はおかしいと思う(各種食料品小売)、「天候不順が影響し、売上不振が続いた(建築材料卸売)、「昨年は店舗の閉鎖で売上半減したが、今年は例年通り。母の日は在宅需要で良かった(洋菓子店)、「まん延防止等重点措置で飲食は客数が戻らず、客単価も下落(各種商品小売)、「GW、母の日が過ぎたら売上激減(洋菓子店)、「来客数は平年の5分の1。お客様の自宅訪問依頼が増えるが、店頭人数制限があり、日時を決めて出向いている(時計・眼鏡・光学機械小売)、「食品は贅沢メニューや家飲み関連が好調。以前の様に20時以降にお客様が増加する事はない(大型小売店)、「飲食店向けが動かず、スーパー等への卸売、輸出、地方面向けでカバー。テイクアウト系の納品量が増えており、売上も上がっている様子。この傾向は続くと思うので売り先をよく検討したい(農畜産物・水産物卸売)、「施設全体が通常営業しているが、総売上高が前年比1.57、前々年比0.56。コロナ前と比べ、特に飲食部門は70%減(公衆浴場)



サービス業

「ワクチン接種が進み先行き好転を期待。まん延防止等重点措置の解除後も席の間隔を1mあけるようでは売上半減で、採算に乗るのは厳しい。今後、いかにコロナ前に近づいた状態で営業できるかが焦点(日本料理)、「この1年でWeb会議や講習にすっかり慣れた。効率と実務の影響を考えながら、現代技術を大いに活用したい(不動産賃貸・管理)、「日々子供たちに接する身としては、オリンピックより子ども達の行事を優先してほしい(塾)「同業他社が6月にオープンし、お客様を奪い合う事が予想される。酒類提供自粛、時短営業で不安定要素が強い(ホテル)、「働きやすい職場認証制度」が導入され、人手不足が慢性化している運送業界が、就職・転職の選択肢に加わるための会社の評価基準として有効と考えている(一般貨物自動車運送業)

★全国の商工会議所早期景気観測調査(CCI-LOBO)との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲17.3に対し、「CCI-LOBO」が▲25.0で柏の方がマイナス幅が7.7ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、卸小売業、サービス業であり、製造業、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業であり、10ポイント以上悪い。